

翻訳にあたってのヒント

その 16

逆訳発想法

これはかいつまんで言えば、主語と目的語を逆転させたり、受動態を能動態にしたりあるいはその逆に訳出したり、肯定表現を否定表現にしたり、否定を否定したりして言わんとする意味を伝える翻訳のテクニックと言い換えることができます。

例えば、日本語では「俺の負けだ」という言い方をよく耳にしますが、これを日本語では受動態で書かれているから英語でも受動態に訳さなければならないのか？と問われれば、さにあらず。さらりと発想を転換して（つまりこの場合は主語を変えて）能動態で訳すという方法があります。

You win. （君の勝ち。[つまり俺の負けだ。]）

極めてシンプルでありながら、それでいて日本語の意味をそつなく伝える文章ができあがるという次第。

次に取り上げるのは“replace”。

“A replaces B.”という英文は、普通は「AはBに取って代る」と訳しますが、これも主語と目的語を転換すると、「Bが、Aに置き換えられます」という自然な日本語に仕上がります。また、英語に比べ日本語では受動態がよく用いられますので、こちらの方が読みやすい日本語だと言えるでしょう。

具体例：

The corrected value replaces the previous value.

以前の値が、訂正した値に置き換え（書き換え）られます。

（直訳： 訂正した値が以前の値に取って代ります。）

次は、“have to do ...”を引き合いに出してみます。

定番訳は、「～しなければならない」ですが、日本語では多種多様な表現が用いられるという観点からすると何とも味気ない表現であり、文脈によってはこれでは通用しない場面がよくあります。そのような場合に先に述べた否定を否定して言わんとする意味を伝える表記法を用いるとうまく訳出できることがあります。

以下その訳例：

「～しなけりゃ駄目だ、～するしかない（だろ）、～しない訳にはいかない（ぜ・よ）、～せざるをえません(えない)、～せずにいられない、やむにやまれず～する等」

例文：

They have to go. それらは（彼らは）止めざる（辞めざる）を得ない（得なくなった）。

“A is B.”に見られる逆転訳：

これについては、お決まりの「私の名前は～です」の文章を使って説明してみましょう。

My name is Tom. → Tom is my name.

当然ながらどちらも同じ意味ですね。

“had better ...”を使った肯定表現の否定（ネガティブな）表現への逆訳発想法：

You had better work it out.

それを解決しないと困ったことになる。

（直訳：それを解決したほうがいい。）

最後に、形容詞を逆に訳した例を紹介しておきます。

Putting forward a different candidate would be a worse way out than recommending me.

別の候補者を指名するのであれば、私を指名することの方が良い解決策となるだろう。

無論、以上の各文例は、絶対にこう訳さなければならないということではなく、日本語として逆訳の発想をした方が自然になると思われる場合に使うテクニックであり、意味だけを取ればいい場合に、直訳でも伝わるのであればそれで十分だと思われます。

蛇足：

I don't have no money.

この文章は、文法的に正しく表記すれば、“I don't have any money.”あるいは“I have no money.”と書かなければなりません。ところが、こういった言い方をするアメリカ人があまりにも多いためか、最近は例外も文法のうちということで市民権を得た言い方として認められたそうです。私もアメリカに滞在していた時には、よく路上の物乞いにこんな言い方をされた思い出があります。しかしよく考えてみると、教養も仕事もなく一文無しになってしまった人たちにとっては、文法もへったくれもなく、いかにも金がないという状況を的確に表している英語だと言えるのでないでしょうか。

以上、本日の一口メモでした。